

「授業」で生徒を、学級を伸ばす 第1回

中学校教育の 不易と流行

中学校は、戦後から一貫して、

3年間の後期義務教育を担う重要な役割を果たしてきた。

いかに社会が変化しようとも、今後の中学校教育において

大切に続けたいことは何か。それを守るために

どのような視点で変化を受け止め、進んでいけばよいのか。

校長先生の対談と学校の取り組み事例から考える。



中学校教育の歩み

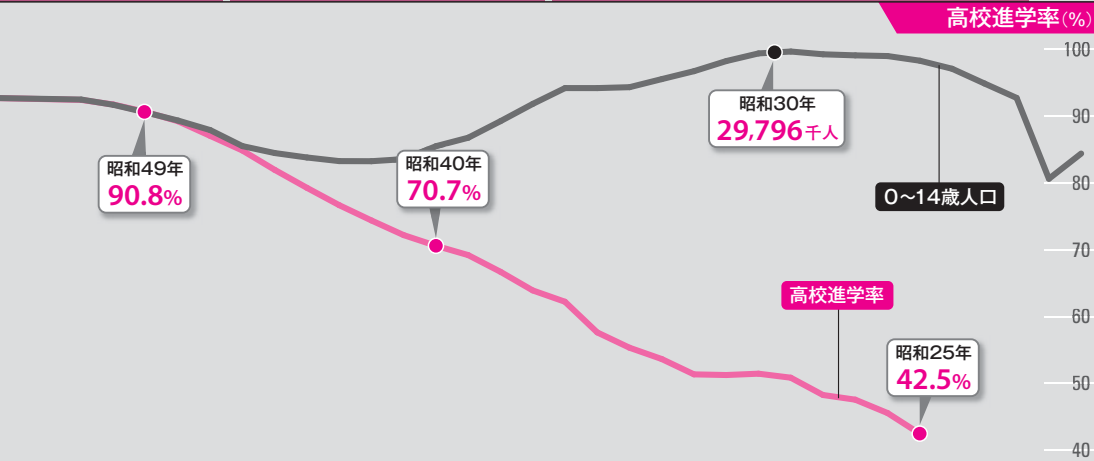
1947(昭和22)年に「6・3制」の新学制が実施されてから2011年度で64年を迎えた。中学校教育の変化を、主な出来事と統計データからまとめた。



経済成長に対応した教育の量的拡大

産業経済の発展、所得水準の上昇により、教育に対する国民の熱意が強まる

3年間の授業時数



参考文献

- ◎文部科学省「学校基本調査」「学制百年史」「学制百二十年史」「わが国の教育の現状」「わが国の教育水準」「中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会 第4期第3回資料」「生徒指導上の諸問題の現状について(概要)」
- ◎教育情報ナショナルセンター(国立教育政策研究所教育研究情報センター)「過去の学習指導要領」
- ◎全日本中学校長会「中学校教育六十年」
- ◎Benesse 教育研究開発センター「第2回子ども生活実態基本調査」
- ◎国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」「人口統計資料集」

「授業」で生徒を、学級を伸ばす

第1回

中学校教育の不易と流行

30	25	20	15	10	5	平成元年	60	55	
2020	2015	2010	2005	2000	1995	1990	1985	1980	
<ul style="list-style-type: none"> ◎新学習指導要領で6年間学んだ児童が中学1年生に 	<ul style="list-style-type: none"> ◎新学習指導要領施行 ●全国学力・学習状況調査(理科を追加) ●PISA2012 	<ul style="list-style-type: none"> ●国際数学・理科教育動向調査(TIMSS)2011 ●全国学力・学習状況調査(抽出調査に変更) ●PISA2009 ◎携帯電話所持率男子44%、女子56% ●学習指導要領「生きる力」 ●国際数学・理科教育動向調査(TIMSS)2007結果発表 	<ul style="list-style-type: none"> ●教育基本法改正 ●PISA2006 ●教育再生会議設置 ●教育三法改正 ●全国学力・学習状況調査(悉皆調査) ●学習指導要領「生きる力」 ●国際数学・理科教育動向調査(TIMSS)2007結果発表 	<ul style="list-style-type: none"> ◎大学・短大進学率が5割を超える ●国際数学・理科教育動向調査(TIMSS)2003結果発表 ●PISA2003 ●国際数学・理科教育動向調査(TIMSS)2003結果発表 ●教育基本法改正 ●PISA2006 ●教育再生会議設置 ●教育三法改正 ●全国学力・学習状況調査(悉皆調査) ●学習指導要領「生きる力」 ●国際数学・理科教育動向調査(TIMSS)2007結果発表 	<ul style="list-style-type: none"> ●21世紀教育新生プラン(レインボープラン) ●確かな学力の向上のための2002アピール「学びのすすめ」 ●完全学校週五日制 ●PISA2000 ●教育改革国民会議「教育改革国民会議報告」教育を変える17の提案 ●PISA2000 ●国際数学・理科教育動向調査(TIMSS)2000結果発表 	<ul style="list-style-type: none"> ●学校週五日制(月2回) ●中教審答申「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」(第1次答申) ●中教審答申「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」(第2次答申) ●学習指導要領「生きる力」 ●部活動、教育課程外に ●中高一貫教育の制度化 	<ul style="list-style-type: none"> ◎「校内暴力」多発(年間3547件) ◎「いじめ」多発(小・中・高校全体の約半数で発生) ◎臨時教育審議会(臨教審)設置 ◎「いじめ」多発(小・中・高校全体の約半数で発生) ◎「校内暴力」多発(年間3547件) 	<ul style="list-style-type: none"> ●学級編制の標準を45人から40人に引き下げ ◎「校内暴力」多発(年間3547件) ◎「いじめ」多発(小・中・高校全体の約半数で発生) ◎臨時教育審議会(臨教審)設置 	<ul style="list-style-type: none"> ●学習指導要領「ゆとりと充実」

「知の更新」を目指して

知識基盤社会において、国際社会に生きる日本人としての資質・能力の重視。地域・家庭との連携の動き進む

「生きる力」の育成と総合的な学力の重視

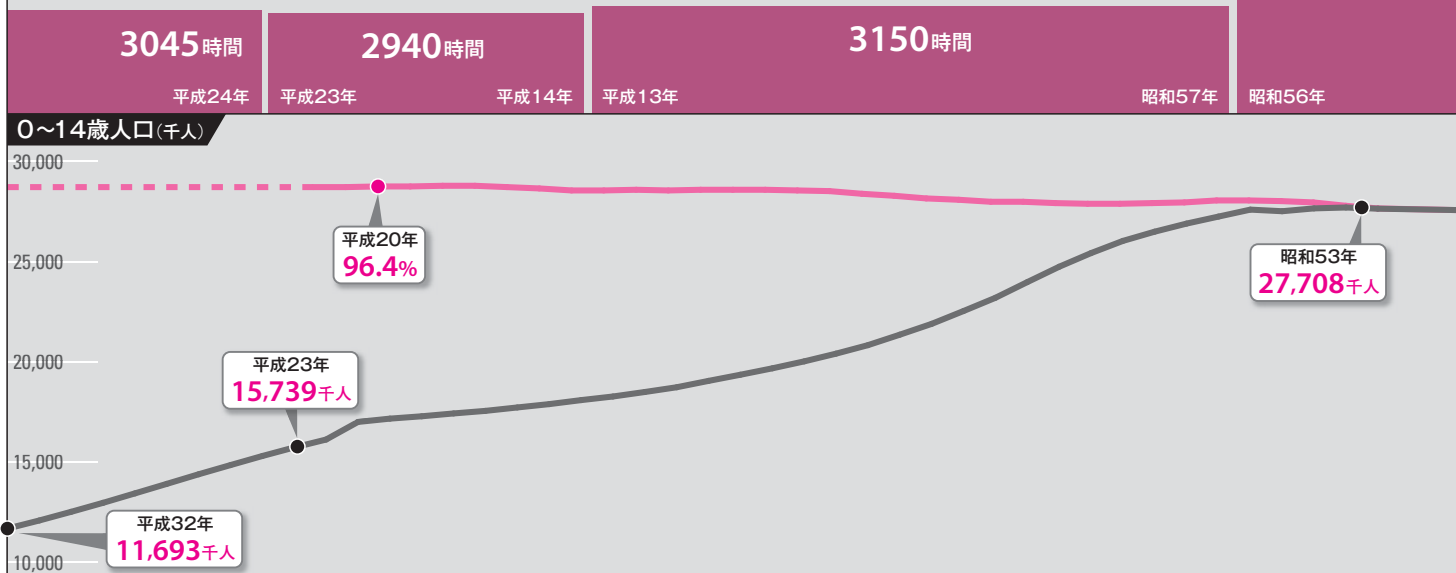
国際化が進む中、公教育への不信感が高まる。確かな学力と豊かな人間性の育成を重視

個性重視と変化への対応

知識集約型産業への転換、地方分権の進展の中、個性重視の原則、生涯学習社会への移行。いじめや不登校の問題が顕在化

安定成長下の教育の質的向上

経済の安定成長期。受験戦争が激化し、校内暴力の問題が顕在化



*2012(平成24)年以降の項目・数値は変更の可能性があります